

「問題定義から解決まで」の困難を共に乗り越える皆さんへ

東京大学大学院 情報学環・学際情報学府 大学院生

短い時間でしたが授業の際には皆さんとお話しができ、個人的にはとても楽しく意味のある時間だったと思っています。

今回、皆さんは総合的な学習の授業を受講され、レポートと授業に関する感想文を提出したという事で、それを拝見させて頂きました。私個人としては、総合的な学習が正確に何を指すのか、直接経験した事がなかったので文部科学省の定義を調べてみました。

以下、その定義となります。

「総合的な学習（探究）の時間は、変化の激しい社会に対応して、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目標にしていることから、これからの時代においてますます重要な役割を果たすものである。」

ここで、注目して頂きたいのは横断的・総合的という部分です。横断的という意味は、各科目（学問）が、「塔」の如く垂直に積み上げられており、それを糸で横に縫い纏めることと、理解しております。その根拠として、私が現在所属している大学院では、まさに情報に関する全ての領域を横断的にアプローチする「研究科」として機能しています。その必要性に私も強く同意し、この「研究科」に入学したからです。

同じく今回の授業では、違う専攻の人々が一つの問題に対し、各自の専攻知識を用い考え合ったと知らされています。また、皆さんが提出されたレポート・感想文では、違う観点から学びがあり、考え方に影響を及ぼしたと書いてあるのをいくつも確認できました。

ここで逆に私から皆さんにお聞きしたいのは、何に向けた新たな「学び・考え方」があったのかということです。それは、おそらく皆さんが定義した問題（問題意識）だったのではないのでしょうか。もしそうであるならば、この授業を機に大きい財産を手に入れる事ができたと思っても過言ではないかもしれません。

なぜなら、今回皆さんが選定した問題を含むこの世の全ての問題を解決する為には、領域横断的なアプローチ、即ち、他分野の協力がなくしては難しいと考えられているからです。私を含め皆さんもこれから様々な舞台に立ち、自分が解決すべき問題と直面すると思います。ここでの問題とは必ずしもSDGsに関するのではなく、普段当たり前前に皆さんが消費している全ての物・サービスと関係があります。

それは、これから皆さんが就職し「仕事」をする事が世界にあるなんらかの問題を解決するということです。その過程では本当に様々な人々と協力する必要があると思います。意識して頂きたいのは、そこには「当たり前」はなく、またこれが「普通」でもない。だから理解し難く、伝わり難いことがデフォルトだと思って頂ければと思います。どう他分野の方々と協力し目的を果たすのが難しい所だと思いますが、その度に授業でのグループワークの経験を思い浮かべてみてはいかがでしょうか。

これから世界にある問題を一緒に担っていく同世代の人として、またどこかで会える日を楽しみにしています。